



< 糖尿病・内分泌内科 >

概要

名古屋大学糖尿病・内分泌内科の協力のもと 2010 年 4 月、糖尿病・内分泌内科開設。現在常勤医師 4 人体制で診療にあたっている。

食事の欧米化、車社会の発達に伴う運動不足、ストレスの多い社会生活などによって近年、わが国でも糖尿病患者数は増加の一途を辿り、2007 年度の調査結果では、糖尿病が強く疑われる者、および糖尿病の可能性を否定出来ない者を併せて 2210 万人と報告されている（厚労省国民栄養調査）。高血糖放置により起こる種々の合併症（神経障害、網膜症、腎症、狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、足壊疽等）を予防する事が糖尿病治療の目的といっても過言ではなく、各科、各部署と連携しながら教育、治療を進めている。治療には食事療法、運動療法、薬物療法があるが、食事療法が守れていない、とか運動療法ができていない、といった一言の治療で済ますのではなく、患者さんひとりひとりの血糖値が悪くなった原因を探り、解決策を本人と共に考えて治療にあたるというオーダーメイド治療に取り組んでいる。

外来診療は、当科開設時、内科第 7 診察室の 1 診体制でスタートし、徐々に増枠。2011 年度より外来を 2 階へ移し、第 18、19 診察室の 2 診体制で連日運用している。2011 年 6 月より看護師による糖尿病療養指導外来を開設。また 7 月に糖尿病教室テキストの第 1 版も発行し、8 月より外来糖尿病教室も再開している。毎月行っており、2 日間を 1 コースとして入院困難な方への教育の場となっている。今後フットケア外来の開始も予定しており、外来で行える患者指導の幅が徐々に広がってきている。

入院診療においては東 2 階病棟に 11 床、西 6 階病棟に 3 床の計 14 床で主に糖尿病の教育入院を中心に診療している。入院糖尿病教室は栄養管理室、薬局の協力を得て、入院患者を対象に平日毎日（15 時から 16 時）、第 7 会議室で継続中である。

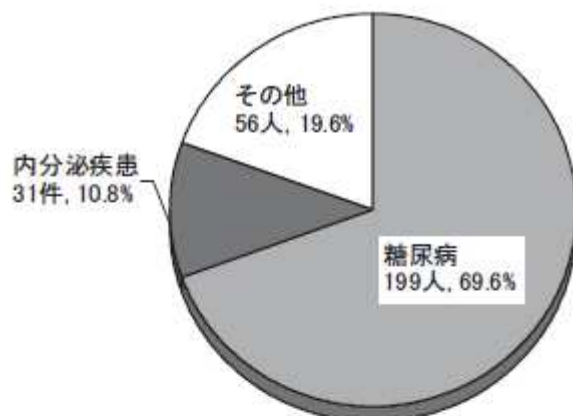
糖尿病治療は患者教育そのものであり、糖尿病に携わる医療関係者がそれぞれの特性を生かして療養指導にあたる事で高い教育効果、ひいては治療効果を上げる事が出来る。2011 年 7 月に医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師からなる豊橋市民病院糖尿病チームが発足した。週に一度チームでカンファレンス（毎週木曜日 13 時半から）を行い、患者の病状把握、問題点のピックアップを行い、一定の方向性を持って患者指導にあたるよう努めている。また糖尿病に関しての理解を深め、より良い患者指導が出来る事を目標としてコメディカルを対象に院内糖尿病勉強会を開催しており、今後も引き続き開催していく。チームとしての活動は患者カンファレンスにとどまらず、2011 年 11 月には全国糖尿病週間に併せて院内で糖尿病関

連イベントを実施した。好評につき今年も開催を予定している。また 2012 年度は当院歯科・口腔外科とタイアップした「ストップ・ザ・歯周病」キャンペーンを展開中で、治療にあたって有益な情報を提供できるよう引き続き努めていく。

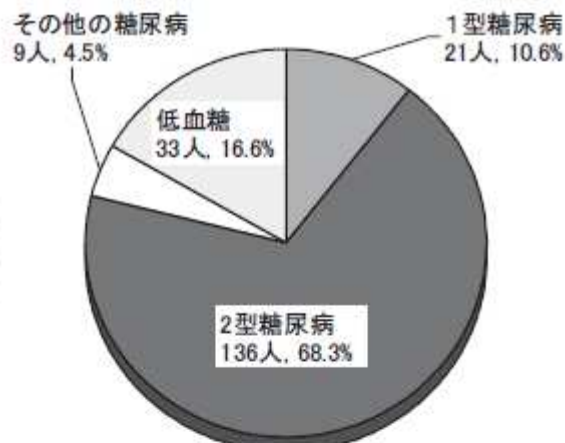
今後の展開としては、入院、外来での患者教育をより高いレベルで行えるように工夫し、状況の安定した方については地域との病診連携による病状管理を行っていく。今後も地域の拠点病院として恥じない診療が出来るように、診療内容、スタッフの充実には特に力を入れていく。

（水谷 直広）

疾病別入院患者 286人



糖尿病患者内訳 199人



栄養指導件数



(1) 入院患者数 (人)

疾患名	患者数
①糖尿病	199
(ア) 1型糖尿病	21
(イ) 2型糖尿病	136
(ウ) その他の糖尿病	9
(エ) 低血糖	33
②内分泌疾患	31
③その他	56
計	286

(2011年4月から2012年3月)

(2) 栄養指導件数 1,349件 (件)

指導区分	個人	集団	計
①入院指導	335	142	477
②外来指導	781	91	872
計	1,116	233	1,349

(2011年4月から2012年3月)

業績

- 学会・研究会発表
- 座長
- 講演

学会・研究会発表

1. 過去半年間に当院受診した低血糖症例の検討
水谷直広
第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会(札幌)2011.5.19～21
2. アカルボースが原因と考えられた下血で発症した腸管気腫性嚢胞症の1例
山口昇子
第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会(札幌)2011.5.19～21
3. 持効型溶解インスリンアナログ 900 単位を含む合計 3000 単位のインスリン大量注射により血糖降下作用が遷延した2型糖尿病の1例
金田成康
第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会(札幌)2011.5.19～21
4. 当院におけるシタグリプチンの使用経験
伊藤真梨子
第 84 回日本糖尿病学会中部地方会(名古屋)2011.10.22
5. ペンタミジンにて低血糖及び糖尿病発症を認めたが、その後耐糖能が改善した1例
金田成康
第 84 回日本糖尿病学会中部地方会(名古屋)2011.10.22
6. BOT インスリン導入からみた栄養指導の効果
藤田克宣
第 84 回日本糖尿病学会中部地方会(名古屋)2011.10.22

座長

1. レクチャー座長
水谷直広
東三河生活習慣病研究会(豊橋)2011.8.18
2. 特別講演座長
水谷直広
東三河糖尿病セミナー(豊橋)2012.2.25

講演

1. 豊橋市民病院における糖尿病内科の現状
水谷直広
Diabetes Expert Meeting(豊橋)2011.4.25
2. 当院におけるシタグリプチンの使用経験
水谷直広
東三学術講演会(豊橋)2011.8.03
3. 血糖値、どこまで下げる、どう下げる
水谷直広
豊橋糖尿病友の会総会(豊橋)2010.11.18
4. 糖尿病と歯周病
水谷直広
Dental Study Club(豊橋)2011.11.28
5. 糖尿病治療薬の中での DPP-4 阻害薬の位置づけについて
水谷直広
トラゼンタ錠発売記念講演会 in Toyohashi(豊橋)2011.12.3
6. 糖尿病治療薬の今
水谷直広
循環器エキスパートミーティング(豊橋)2011.12.6
7. シタグリプチンとインスリン併用例の検討
水谷直広
第1回三河地区糖尿病講演会(安城)2012.2.8

8. 1年間で当院へ受診した低血糖症例の検討
水谷直広
第 58 回東三河内分泌疾患談話会(豊橋)2012.2.25

9. 肥満例に対するリラグルチドの使用経験
金田成康
第 21 回豊橋糖尿病セミナー(豊橋)2012.3.7

